

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375000300		
法人名	(有)ハートフルハウス		
事業所名	ハートフルハウスグループホーム「よるこんぶ」		
所在地	愛知県愛知郡長久手町長湫字宮脇47番地		
自己評価作成日	平成22年1月1日	評価結果市町村受理日	平成22年3月18日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ケア・ウィル		
所在地	愛知県名古屋市中村区則武1-13-9 チサンマンション第三名古屋1109号		
訪問調査日	平成22年1月29日	評価確定日	平成22年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族会旅行を年に1回企画。今までに岐阜、三重、滋賀、静岡、長野、愛知に入居者、家族、職員で行きました。旅行の時は入居者の普段見れない表情が垣間見えることを職員はとても楽しみにしています。ご家族と職員の信頼関係を築くことにも役立っています。  
 家族会を設立したことによりご家族同士の関係が深まってきています。  
 日常の入居者の様子を「よるこんぶだより」として2ヶ月ごと(偶数月)に送っている。  
 もったいない運動を実施しています。光熱費やゴミを減らすと共に環境にも配慮した運動です。  
 グループホーム連絡会を平成16年5月よりお互いの資質の向上と交流を目的に、3ヶ月に1回程度で実施。防災や食事や勤務体制などテーマを変え話合っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは古民家を改装して、昔の農家の庭先がそのまま残っているような環境のなかにある。入居者の介護度が高くなっているが、職員は入居者の意向を汲み取るため小さなことにも気を配り、話し合いを重ねている。職員は親身になってケアに当たっており、職員間で話し合い、今年の課題としてあげた「よるこんぶ改善2009」に基づいて、入居者への接し方について取り組んでいる。入居者の立場になって考え、トイレで座位がしっかりとれない人には、前にもたれることができる福祉用具を設置するなど工夫している。町内にある他のグループホームへ職員が研修に行ったり、会議では一人ひとりが意見を持って話し合うなど、職員は意欲的でチームワークも良い。家族の面会が多く、入居者、職員、家族の関係が良好であることが家族アンケートからもうかがえる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「よるこんぶ改善2009」(入居者様への接し方 食を考える 季節を感じる生活の実施 環境整備)とハートフルハウスの経営理念を掲げ各担当者を決め、担当者を中心に取り組みをすすめている。	職員の話し合いにより、昨年十分にできなかったことや今年の課題を考えて「よるこんぶ改善2009」を策定し、母体法人の経営指針である、地域との関わり、地域への貢献をあわせて理念としており、職員全員が協力して理念の実現に取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	今年度の運営推進会議において12月に防災会を企画しており、参加者に施設の説明、見学などを予定している。現在はあいさつのみで立ち寄って頂くには至っていない。	自治会に加入しており、もちつき大会、ホームの運営推進会議や防災会の参加呼びかけは回覧板で各戸に配布をした。町内の祭りには、子ども会の「棒の手」の訪問があり、入居者がおひねりをあげる等の交流があった。外出先で知り合ったボランティアの訪問もある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かしていない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容をMT等で報告していなかったため今後していく。	年4回開催しており、行事報告、外部評価の報告を行った。会議で出された意見により、ホームを知ってもらい地域に貢献できるよう、もちつき大会の日に合わせて推進会議と防災会を企画し、近隣に参加を呼びかけて、救急救命の講習を行った。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年3月のグループホーム連絡会において町外利用者についての話し合いの場を設け意見交換を行った。	事故や何かあった時には、担当者に報告や相談をしている。町内のグループホームの連絡会に町の担当者が年1回出席し、意見交換をしている。防災会企画の際は、福祉課、安心安全課に相談して、地域との交流についてアドバイスを受けた。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	MTにて勉強会を実施し、防止に努めている。やむ負えない場合は、ご家族への説明・同意書を得ている。	勉強会で身体拘束について学び、禁止行為について職員の理解を深めている。現在2名がベッドからの転落防止のため、四点柵を使用しているが、家族に説明し、同意書を得ている。居室の鍵はなく、玄関も日中は鍵をかけていない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	MTにて勉強会(魔の3ロック、虐待の種類、厚労省から出ている虐待の具体的な行為など)を実施し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	MTにて勉強会を実施し、必要な入居者が活用できるような支援・協力をしている。(成年後見制度入居者2名利用中)		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はご本人、ご家族へ契約書、重要事項説明書を元に説明し同意を得ている。また、契約内容変更時は個別、または家族会等において説明、同意を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時や家族会、個別援助計画更新の面談時にコミュニケーションをはかり運営に反映するよう努力している。	家族会を年4回開催している。参加者は多く、行事の際も協力的である。年6回発行されるホーム便り、行事や入居者の日ごろの様子を伝えている。家族の面会が多く、職員に何でも話してもらえる関係を築いている。家族アンケートで出された要望には、早速応えていきたいと考えている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のMTにおいて意見や提案を聞く機会を設けている。 年に1度会社より個別に意向調査を実施し意見を反映している。	会議では通常の議題のほかに、一人一議題を持って参加するようにし、些細なことでも出し合っている。正職員、パートの区別なく、互いに気付いたことを話し合っており、職員の意見、提案を汲み上げている。年1回、本社が書面により個別の意向調査を実施している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・公休・有給の消化が出来るように努力している。 ・ハートフルハウス安全衛生委員会にて環境整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内で現状に即した勉強会を職員で企画・実施しサービスの質向上に努めている。また、社外研修にも積極的に参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会(平成16年5月より年4回の勉強会)を実施、継続している。 愛知県グループホーム協会、あいち小規模多機能ケア連絡会に加盟している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望の本人やご家族にまず施設内見学と他入居者の状態を知っていただき雰囲気をつかいていただく。その上で面談を実施し疑問点や不安点を聞き何か意見等あれば応える様に努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新規に入居希望があった時に満床の場合は長久手町内のグループホームに入居希望者の紹介をし法人を超えた協力体制を作っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝昼晩と三食を共にし、生活を共にすることで入居者を大切な存在と感じ元気をもたらしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	若い職員が親よりも目上のご家族に多くのことを教わり(畑仕事、料理、昔のことなど)、その中で信頼関係を深め入居者のことを一緒に考えていける関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状のやりとりや、誕生月に職員がマンツウで馴染みの場所へ連れて行ったり、自宅に帰る手助けをしている。	家族以外の知人、友人との年賀状のやりとりを支援している。誕生月には自宅への送迎を支援したり、本人が以前よく行った店にも出かけている。入居後も、馴染みの美容室に通っていた方もいる。近くの喫茶店へはよく出かけており、馴染みの関係となっている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性などを考慮した座席配置とし、まわりを思いあったり刺激し合あう関係が築けている。		
22		関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらからは積極的な取り組みは実施していない。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	重度化により本人の意向を聞くことは難しいが、気持ちをくみ取り、また家族の思いを反映した個別援助計画を3ヶ月ごとに作成し実践に努めている。	言葉により意思を伝えることが困難な場合が増えてはいるが、職員は本人のちょっとした表情の変化や言葉、行動に注意を向け、それぞれが感じたことを話し合い、生活歴や家族からの話を合わせて、本人の思いや意向の把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談と家族が来訪した際の会話などから把握できるよう努めている。また、各入居者のご家族にセンター方式(家族版)を記入していただき情報収集している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録は出勤者全員が必ず記入し1日の過ごし方の把握をしている。また朝はバイタルチェック(血圧、脈拍、体温)を実施し入居者の体調管理をしている。排泄状況もわかりやすくチェック表に記載している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者の担当が入居者本位に考え、3ヶ月ごとに個別援助計画(案)を作成。その後全職員が目を通しご家族、各職員の意見等を取り入れ個別援助計画を作成している。	担当介護職員が計画案を作り、全職員に回覧し、意見を聞いたり、ミーティングで話し合ったり、職員の意見や気付きを取り入れている。日ごろの家族との会話から意向を聞き、家族、担当職員、計画作成担当者、管理者が会議を持ち、介護計画の最終決定をする。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録に即したプランを作成し活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ハートフルハウスではGH以外の事業があり現在、昼食は宅配給食の「玉手箱」を利用している。また隣接のデイサービスのレクリエーションへの参加をしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	音楽デリバリーや日本舞踊、足つぼマッサージの方々が続いてボランティアに来ている。平成21年12月27日もちつき大会実施。多くの近隣の方々に参加する中、入居者さんも餅をつき楽しまれた。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回永井内科と田村歯科の往診がある。緊急時には適時連絡のつく状態になっており、主治医の往診を受けている。	月2回、内科と歯科の往診がある。家族が対応する、受診時には服薬内容を説明し、受診後は家族より報告を受け、全職員が内容を把握している。認知症専門医への受診も支援している。入居者には家族と職員が付き添い、的確な情報を伝えている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日定期的に併設のデイの看護師が立ち寄りバイタル表を確認し、入居者の状態を把握している。それ以外にも入居者に医療行為(摘便や傷の処置など)の必要があれば対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	個々に作成した情報シートを利用し病院との情報交換に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてのことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会において話し合う機会を設け、個々の家族の思いを聞き同意書を頂き、関わる者全員で方針を共有している。また、3か月ごとの面談時に意思の確認している。	入居者の年齢や介護度が高くなってきている状況で、重度化に対して家族やかかりつけ医との話し合いの必要性を理解している。3か月毎の家族面接時に意思の確認を行ない、家族会では重度化について話し合う機会を設けることで連携を図っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・ホーム内での緊急時対応の勉強会の実施。 ・平成21年12月27日に消防署と協働して緊急時の講演会を実施。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回(6月、10月)入居者と職員で防災訓練を実施。	地域との協力体制の大切さは認識しており、運営推進会議を通じて地域にお願いをしたり、救護ボランティアの方に心肺蘇生法やAED使用方法を学ぶ講習会を運営推進会議で開催した。備蓄品(乾パン、水、保存食等)は3日分用意している。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の入居者に合わせた声掛けを行い自尊心を傷つけないように心掛けている。	プライバシー保護の研修を行い、入居者の気持ちを大切にするケアを実施している。職員は、年齢関係なく羞恥心はいつまでもあることを認識し、排泄時にはタオルをかけ露出を防ぐようにしている。また、排泄チェック表は人目に触れないように裏向きに伏せてある。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	重度化により本人の意思決定は難しく、わかる力に合わせた働きかけができていない。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方をご本人に決めて頂くことはほとんどなく、職員のペースを優先しがちとなっている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に入居者の散髪は訪問美容師にお願いしており本人や家族の希望を取り入れた髪型にしている。また入居者の中には希望により定期的に馴染みの美容店に通っている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化により準備や片付けをすることは困難だが、料理の本と一緒に見て献立を相談し楽しみを持てるよう努めている。	正月のおせち料理や七草粥、寒い夜にはよせ鍋など四季折々の食事を提供している。また、朝食のかぼちゃパンやおやつのかき氷は職員の手作りで、食卓を楽しませている。入居者は煮干しの頭をとったり、キノコを割いたり、できる範囲で下ごしらえをお願いしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士に相談しハリスベネディクトにより個々の入居者の必要カロリーを計算した。また、入居者に合わせた食態(ブレンダー、刻みなど)にして提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別の口腔ケア方法を一覧の表にまとめ洗面所に貼り、情報の統一をしている。また月2回の田村歯科の往診を受けている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄チェックを24時間表で管理し排泄パターンを把握するよう努力している。	排泄パターンをチェックし、声かけ誘導を行っている。運動不足や便秘解消を兼ねて、廊下を歩いたり、食物繊維や乳製品を取るよう心がけている。冬季には各トイレにオイルヒーターやミニファンヒーターを置き、寒さに対する注意を怠らない。座位がしっかりとれない人のために前かがみになる福祉用具を設置している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段より食物繊維や乳製品などが取れる様に食事の内容を気をつけている。歩行困難な方にもできるだけ歩いて頂き運動不足とならないよう働きかけ、それでも排便のない日は坐薬を使用し排泄できるよう促している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆず湯や菖蒲湯など季節を楽しめる様な入浴を実施している。また会話を楽しんだりするなどなるべく安心して入浴できるよう支援している。	入浴時間は午後2時～5時の間の入浴で、無理強いはしないでタイミングを見ての声かけをしている。ゆず湯や菖蒲湯で季節感を取り入れ、入浴希望があれば毎日入浴できる体制はできている。木製の湯船でのんびり職員と会話を楽しみながら安心して入浴している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠などがある入居者には居室やソファで休んでいただくなど休息できるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬箱に服薬内容チェックシートを貼り誤薬防止に努めている。またバイタル表に薬の内容を記入し変更ごとに書き直している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段のお出かけ行事などを計画し予定を伝えることで楽しみや張り合いが出るような支援をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節が感じられるように入居者の状態を見ながら買い物への同行や散歩、お出かけ行事を実施し外の空気に触れられるよう支援しているが、その日の希望にそってとは言えない。	今年はインフルエンザ流行のため外出を自制している中、日帰り旅行で猿投温泉に出かけることができた。入居者の日頃とは違った笑顔を見ることができた。職員への励みの一つになっている。年末には母体であるハートフルハウスでのもちつき大会に参加し、皆で楽しんできた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は金銭を入居者に持たせていただくことはしていない。ただ、お出かけた際には入居者とお土産コーナーなどを回り希望がある入居者には土産物を買える様に支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話があれば取り次ぎ、また電話をしたい申し入れがあった場合は行っている。年賀状作りを一緒に行い家族へコメントなども書けるよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の状態に応じて手すりを設置している。花を植えたり野菜を庭で栽培したりして生活感や季節感を採り入れている。居間には季節感のある装飾や手作りのカレンダーを飾っている。	暖かい日にはテラスにて日向ぼっこをしたり、昼食を楽しんだりしている。庭の手入れは家族の協力で草取りや花を植えてもらったりして、季節感を楽しんでいる。リビングは床暖房であり、壁には手づくりカレンダーや日めくりがかけてある。和室を利用して、ボランティアの方の日本舞踊披露があるなど、上手にスペースを活かしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の方は基本的にはリビング(食堂)で過ごされるが、状態に応じて居室、和室、ペランダ、第二リビングを使用し居場所の工夫をしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には本人の使い慣れたものや好みのおものを置いている。また入居時だけでなく家族会などにおいて家族と相談して今の入居者にとって最適の住環境を整えるよう工夫している。	築100年経っている民家で、各居室のスペースがまちまちで畳の部屋、床の部屋と様々である。部屋によっては窓が掃出しになっており、出入りがしやすくなっている。自作の押し花の作品が飾ってあったり、使い慣れた家具等が配置されており、動きやすく工夫されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	アセスメントや援助計画を通し考えている。		

(別紙4(2))

事業所名 ハートフルハウス グループホーム「よろこんぶ」

## 目標達成計画

作成日: 平成 22年 3月 13日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	37	重度化により本人の意思決定は難しく、わかる力に合わせた働きかけができていない。	・個々のペースに合わせる。	・センター方式(家族版)を改めて見直すと共に、ご本人の人生を再アセスメントし、より良い生活が送れるように職員間で話し合っていく。	12ヶ月
2	38	一日の過ごし方をご本人に決めて頂くことはほとんどなく、職員のペースを優先しがちとなっている。	・業務を優先しない。	・何の為に介護しているのかをもう一度、職員間で話し合いご本人のペースに合わせた生活を考えていく。	12ヶ月
3	18	平成22年度より人事異動があるので(1人他部門へ異動、2人退職。他部門より2人異動)関係性を改めて構築する必要がある。	ご本人・ご家族との信頼関係をしっかりと築き不安を抱かせない。	・行事等を通してコミュニケーションをとる。 ・個別援助計画を通してニーズを把握し介護に活かす。	6ヶ月
4	19	同上	同上	同上	6ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。